

第56回試験研究成果発表会（野菜Ⅰ）発表概要

【日時】平成30年11月29日（木）13:00～16:00

【会場】農林総合研究センター 水稲・畑地園芸研究所
東総野菜研究室（旭市三川14886）

発表1 成果発表（13:10～13:35）

結露センサー付き複合環境制御装置を用いたミニトマト好湿性病害の抑制技術
病理昆虫研究室 國友 映理子

結露センサー付き複合環境制御装置（商品名：まもるんサリー）を用いて、ハウス内の湿度及び温度をコントロールして、ミニトマト栽培し、好湿性病害の発生が抑えられるか試験しました。その結果、ミニトマト疫病、葉かび病、斑点病、灰色かび病が抑制できることが明らかとなりました。



ミニトマト灰色かび病

発表2 情報提供（13:35～13:55）

ネギ産地における接着剤式全面マルチ土壤消毒機の現地適応性評価

山武農業事務所 改良普及課 吉橋 泰彦

土壌伝染性病害であるネギ黒腐菌核病は、わずかな菌核数でも発生のリスクが高いため、防除効果を上げるためには、全面被覆による土壌消毒が有効です。全面被覆を行うには、多大な労力を要しますが、近年、接着剤式全面マルチ土壤消毒機が開発され、省力化が期待されます。

そこで、本機の現地適応性を調査したところ、設定の複雑さや作業時の風の影響等が問題点として指摘されたものの、多くの生産者から高い評価が得られました。



全面マルチ土壤消毒機

発表3 情報提供 (13:55~14:15)

キャベツ「初恋」におけるごま症の発生状況と対策

水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 町田 剛史

春播きキャベツの主力品種である「初恋」の結球部に黒い小斑点が無数に発生して、問題となっています。現地で「ごま症」と称されるこの症状は、べと病の症状であるとも言われますが、詳細は不明でした。

そこで、銚子市農業振興会議によるアンケート調査やそれを受けた実証試験を行ったところ、生育初期にメタラキシルM剤(フォリオゴールド等)を散布することで、「ごま症」が大幅に軽減されることが明らかとなりました。



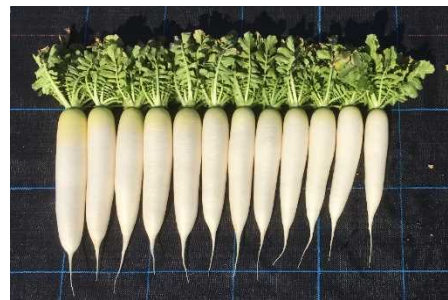
キャベツ「ごま症」

発表4 成果発表 (14:25~14:50)

冬どりダイコンの優良品種の選定 ー第69回全日本野菜品種審査会ー

水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 千吉良 敦史

冬どりの露地ダイコンでは、寒害により腐敗株や規格外品が多発し、収量及び秀品率が低下します。そこで、2月どりダイコンを対象に、「第69回全日本野菜品種審査会」として種苗会社より出品された品種を栽培して特性を明らかにし、優良品種を選定しました。審査された32品種のうち入賞品種は、「SC3-295」、「No.4856」、「SC3-643」、「NR-522」、「KAD-226」、及び「SC4-287」の6品種となりました。



ダイコンの優良品種

発表5 情報提供 (14:50~15:10)

ブロッコリーにおける大規模・省力化栽培促進のための安定生産技術の確立

水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 竹内 大造

近年、秋冬どりブロッコリー栽培では、定植時の長雨や台風等の天候不順により計画的な定植作業ができない年が多くなっています。移植適期を過ぎて長期間育苗されたセル成型苗を移植した場合、定植後の生育遅れが問題となります。

そこで、長期間育苗したセル成型苗へ肥効調整型肥料を定植直前に施用したところ、慣行の育苗方法で定植が遅れた苗に比べて、定植後の生育が良好で収穫時期が前進化することが明らかになりました。



ブロッコリーセル成型苗

試験ほ場視察 (15:10~15:55)

ダイコン、キャベツ、ブロッコリーの試験ほ場説明

ダイコン、キャベツ、ブロッコリーの試験ほ場の視察をします。



ダイコンの試験ほ場